

大阪府の地震

2023年3月

目次

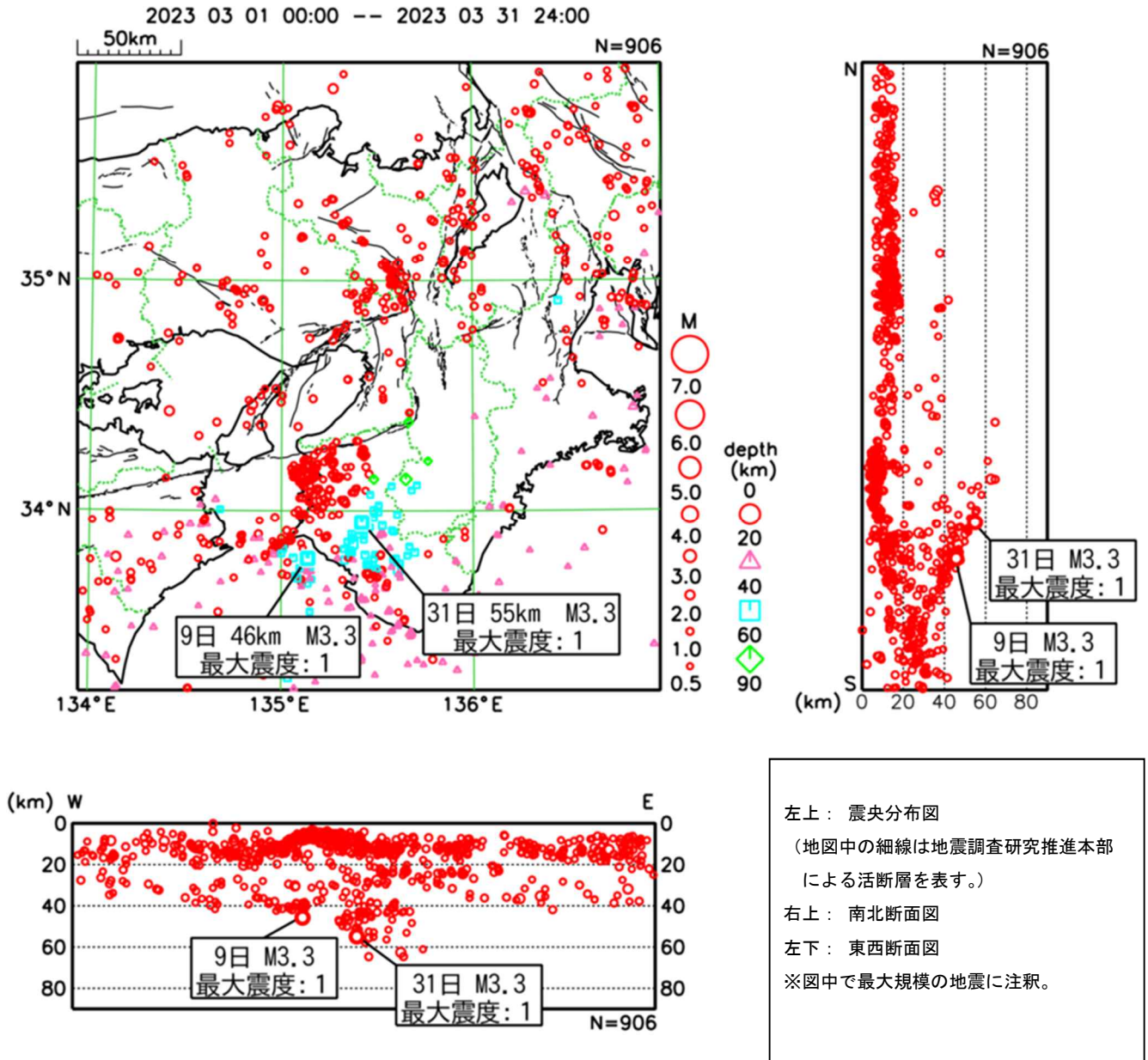
近畿地方及びその周辺地域の地震活動	1
震央分布図と断面図	
概況	
近畿地方で震度1以上を観測した地震	2
府県別震度一覧表と震央分布図	
・大阪府で震度1以上を観測した地震	
※3月に大阪府で震度1以上を観測した地震はありませんでした。	
地震一口メモ No. 214	3
日頃からの備えを再確認	

- * 「大阪府の地震」は月1回発行し、近畿地方及びその周辺の地震活動状況をお知らせするとともに、適宜、社会的に関心の高い地震について解説を行います。また、「地震一口メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。
- * この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図25000（行政界・海岸線）を使用しています。

大阪管区气象台気象防災部地震火山課

近畿地方及びその周辺地域の地震活動

(2023年3月1日～31日)



概況

3月の上図の範囲内におけるM (マグニチュード) 2.0以上の地震は39回 (前月31回) でした。このうち最も規模の大きかった地震は9日の紀伊水道の地震 (深さ46km、M3.3) と31日の和歌山県北部の地震 (深さ55km、M3.3) でした。9日の紀伊水道の地震、31日の和歌山県北部の地震とともに、和歌山県御坊市・白浜町で震度1を観測しました。

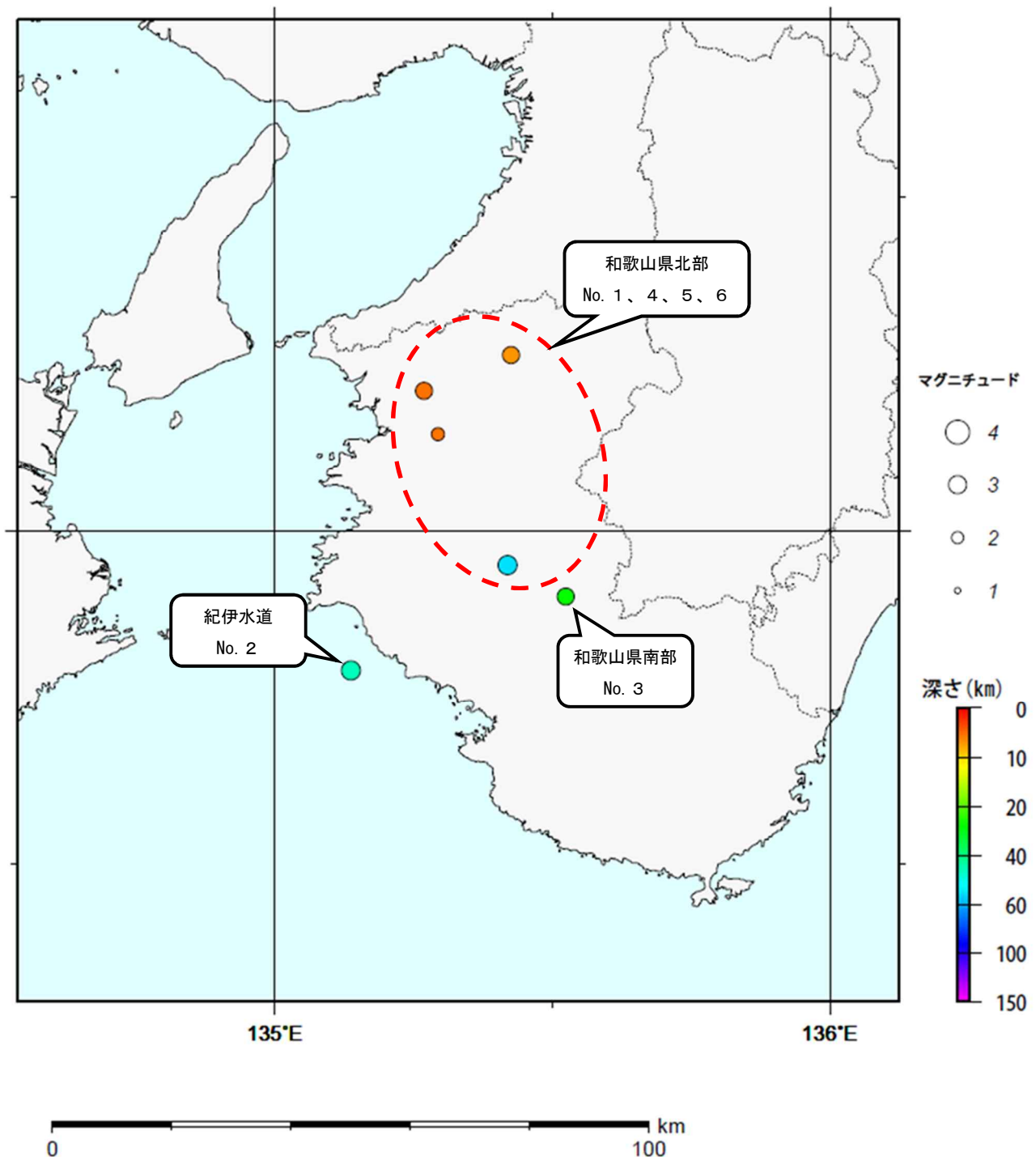
3月に大阪府で震度1以上を観測した地震はありませんでした (前月もなし)。また、3月に近畿地方で震度1以上を観測した地震は6回 (前月5回) でした。

近畿地方で震度 1 以上を観測した地震

府県別震度一覧表

2023年3月1日～3月31日

No.	発震時		震央地名	北緯 度分	東経 度分	深さ km	M	最大 震度	滋賀 県	京都 府	大阪 府	兵庫 県	奈良 県	和歌 山県	
	年月日	時分秒													
1	2023/3/2	15:51:24	和歌山県北部	34° 12.6'	135° 16.1'	5	2.8	1							1
2	2023/3/9	17:17:23	紀伊水道	33° 47.4'	135° 08.2'	46	3.3	1							1
3	2023/3/15	20:22:46	和歌山県南部	33° 54.0'	135° 31.4'	28	2.8	1							1
4	2023/3/21	01:22:56	和歌山県北部	34° 08.7'	135° 17.6'	5	2.2	1							1
5	2023/3/24	16:41:22	和歌山県北部	34° 15.8'	135° 25.5'	7	2.9	2							2
6	2023/3/31	06:31:39	和歌山県北部	33° 56.9'	135° 25.1'	55	3.3	1							1



震央分布図 (注釈の番号は上の表の番号に該当します。)

地震一口メモ No. 214

日頃からの備えを再確認

被害を軽減するために日頃からできることを行いましょう

新年度が始まり、新たに大阪府へ移り住まれた方、学校や勤務先が変わった方などいらっしゃるかと思います。これを機会に、自宅や学校、勤務地のハザードマップの確認、避難場所までの経路、家族との連絡方法の確認、家具の固定や持ち出し品の準備などの日頃からの備えを今一度確認しましょう。

自宅や学校、職場周辺などで津波に襲われるおそれのある場所を、ハザードマップや周囲の地形から確認しておきましょう。津波浸水ハザードマップは、津波により浸水が想定されている区域と浸水深を示した地図で、各都道府県や市町村のHPまたは国土交通省のHPから確認できます。また、避難経路の安全や避難場所を確認しておきましょう。ブロック塀や自動販売機などの倒壊、看板や割れたガラスの落下のおそれがなく安全に避難できるか、避難場所への道順と避難経路での危険箇所を確認しましょう。

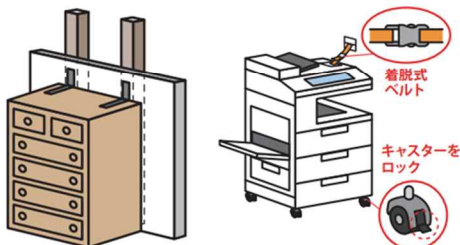
住宅や建造物の耐震化を行い、ガラスには飛散防止フィルムを貼るなど、日頃から家の中の安全対策を行いましょう。家具を固定し、万が一倒れてきた場合でも、通路をふさがらないような配置を考えましょう。ものが落ちてこない・倒れてこない・移動しない空間、安全スペースを作り、揺れを感じたときは安全スペースに移動し、揺れがおさまるまで身の安全を守りましょう。

大災害により電気や水道などのライフラインが止まっても、ある程度は自力で生活できるよう、水や食料などを備蓄しておきましょう。自宅が被災して避難所で過ごさなければならない場合に備え、必要なものをリュックサックなどに詰めいつでもすぐに持ち出せるようにしておきましょう。また、通信回線が使えなくなっても、家族と合流できるように、待ち合わせ場所や非常時の連絡方法などについて話し合っておきましょう。経験したことがないことや想定外のことに、とっさに適切な対応をとることは難しいです。その場その時に合わせてどのような行動をとるべきかあらかじめ想像し、日頃からの備えを今一度確認しましょう。

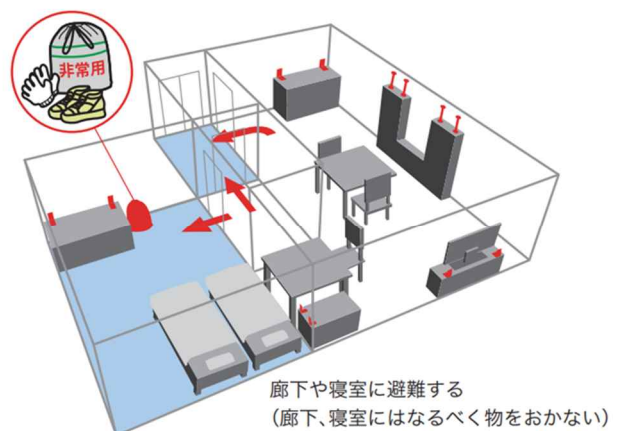
気象庁 HP 地震から身を守るために：

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/jishin_bosai/index.html

安全スペースには、厚手の手袋、底の厚い靴を用意しておく



参照：東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」



安全スペースのイメージ(共同住宅の例)

図：パンフレット「新しい緊急地震速報」(気象庁発行)より

地震はいつどこで発生するかわかりません
いざというときに身を守るために、日頃から備えておきましょう